

『接続詞関係研究文献一覧』（2024 年 3 月公開第 1 版）説明書

馬場 俊臣 作成

1. 概要

『接続詞関係研究文献一覧』（以下、「本文献一覧」）は、作成者が 2024 年 1 月現在までに知り得た日本語の接続詞に関する研究文献（1434 件）を示したものです。

本文献一覧の採録範囲は、現代日本語の接続詞を対象とした研究文献（1945 年以降）です。文連接論・連文論・文章論・談話分析等の観点からの研究文献も含まれています。国語教育及び日本語教育の領域での、学習指導や習得に関わる文献も、知り得た範囲で含んでいます。

文献を、発表年順及び執筆者・編著者名の五十音順に配列し、次の(1)～(12)の事項を記載しています。

- (1)通番、(2)執筆者・編著者名、(3)発表年、(4)論文名・書名、(5)掲載雑誌名・書名、(6)巻号、(7)発行元、(8)頁番号、(9)注記、(10)内容区分、(11)キーワード等、(12)馬場(2010)収録¹

本文献一覧は、2004 年 8 月 26 日に『接続詞関係研究文献一覧 未定稿第 1 版』として、Web 上で公開したデータが基になっています。その後、随時、追加及び修正を行い、最新版は 2024 年 2 月 14 日に公開しています。本文献一覧は、2024 年 2 月 14 日公開版²と同一データです。

本文献一覧記載（2008 年まで）の文献内容の概要は、馬場俊臣（2010）『現代日本語接続詞研究—文献目録・概要及び研究概観—』（おうふう）として刊行しています。「(10)内容区分」「(11)キーワード等」の記載方法の詳細は、同書で説明しています。

作成者の調査不足のため、採録漏れや誤記載等もあると思われます。お詫び致します。

接続詞に関連する研究の促進と発展のため、本文献一覧が貢献できれば幸いです。

2. 凡例

以下に、詳細な凡例を示します。

I 採録範囲は、原則として次の通りである。一部例外もある。

[内容]

- (1) 日本語の接続詞及び接続詞的機能を持つ表現に関する研究文献を対象とする。
- (2) 語論・文論・文連接論・連文論・文章論・談話分析等の研究領域を広く含める。
- (3) 日本語学・言語学以外の研究領域の研究文献も知り得た範囲で対象とする。
- (4) 国語教育及び日本語教育の領域での、学習指導や習得に関わる文献も知り得た範囲で対象と

¹ 馬場俊臣（2010）『現代日本語接続詞研究—文献目録・概要及び研究概観—』（おうふう）の収録の有無を示す。（空欄は収録済みを示す。）

² 「接続詞関係研究文献一覧 馬場俊臣作成」(<https://sites.google.com/view/baba-lab/接続詞関係研究文献一覧/>) 及び(<https://baba-lab.jimdofree.com/接続詞関係研究文献一覧/>) (2024 年 3 月 15 日現在)

する。

[対象語彙・使用言語]

- (1) 現代語の接続詞に関する記述を含む研究文献を対象とする。
- (2) 方言・地域言語に関する研究文献は除く。
- (3) 使用言語は日本語とする。

[発表公刊時期・発表形態、その他]

- (1) 1945 年以降に公刊された研究文献を対象とする。
- (2) 学会・研究会等での口頭発表及びその要旨、事典・辞典類の項目、書評は対象から除く。
- (3) 日本語学及び文法論の概説書は、原則として対象から除く。研究図書・論文集は対象とする。
- (4) 作成者が 2024 年 1 月現在までに知り得た研究文献を対象とする。

II 「接続詞」の範囲は、原則として次の通りである。

- (1) 文と文との接続機能を持つ接続詞及び接続詞と同様の機能を果たす連語（接続語、接続語句、接続表現、複合接続詞等）を「接続詞」とする。
- (2) 節と節との接続機能を持つ接続助詞及び接続助詞と同様の機能を果たす連語（接続語、複合接続助詞等）を主な対象とする研究文献は含めない。ただし、「接続詞」に関する記述が含まれている場合は、採録した研究文献もある。
- (3) 文連接論・連文論・文章論・談話分析等の研究文献の採録については、作成者の判断で、「接続詞」に関する記述が一部含まれていれば採録した研究文献もある。
- (4) キーワードは「接続」「連接」「連文」「順接」「逆接」等である。

III 書式は次の通りである。

[配列]

- (1) 発表年順に配列する。（「年度」との混同で、発表年が 1 年前後している場合がありうる。）
- (2) 同一発表年の場合は、執筆者・編著者の氏名の五十音順に配列する。外国人名の場合、一部例外扱いをしている。

[記載事項]

(1) 雑誌論文

- (1) 通番、(2) 執筆者・編著者名、(3) 発表年、(4) 論文名・書名、(5) 掲載雑誌名・書名、(6) 巻号、(7) 発行元、(8) 頁番号、(9) 注記、(10) 内容区分、(11) キーワード等、(12) 馬場(2010) 収録

(2) 図書論文

- (1) 通番、(2) 執筆者・編著者名、(3) 発表年、(4) 論文名・書名、(5) 掲載雑誌名・書名、(7) 発行元、(8) 頁番号、(9) 注記、(10) 内容区分、(11) キーワード等、(12) 馬場(2010) 収録

(3) 図書

- (1) 通番、(2) 執筆者・編著者名、(3) 発表年、(4) 論文名・書名、(7) 発行元、(8) 頁番号³、(9) 注記、(10) 内容区分、(11) キーワード等、(12) 馬場(2010) 収録

○「注記」には内容に関する覚書及び再録図書等の情報を記したが、網羅的ではない。

[省略事項]

- (1) 発行者が大学内の機関・学会等の場合は大学名のみを示した場合がある。雑誌名に大学名が含まれる場合は発行者を省略した場合がある。

³ 「図書」の場合、総頁数を記載している場合がある。

ただし、2009 年以降に発表された文献については、原則として、大学名及び大学内の学会名等も省略せずに記載する。

(2) 論文集の編者名を省略したことがある（特に記念論集や講座）。

[使用文字等]

(1) 人名以外は原則として新字体に統一する。人名についても原則として新字体に統一するが、例外的に旧字体にする場合もある。

(2) 図書名のみ『』又は”” を付す。

(3) 原則として、○付き数字は、○をはずす。ローマ数字のⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ等は、英字のⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ等とする。

Ⅳ 「(10)内容区分」「(11)キーワード等」について

記載方法の詳細な説明については、馬場俊臣（2010）『現代日本語接続詞研究—文献目録・概要及び研究概観—』（おうふう）参照。

Ⅴ 本文献一覧作成にあたり、次の参考文献及び文献検索を利用した。記して感謝申し上げる。なお、現在では利用できない Web サイト、サービスも含まれている。

(1) 中山緑朗（1984）「副詞・連体詞・接続詞・感動詞関係研究文献一覧」鈴木一彦・林巨樹（編）『研究資料日本文法 第4巻 修飾句・独立句編 副詞・連体詞・接続詞・感動詞』明治書院、pp. 337-345.

(2) 有田節子（1993）「日本語条件文研究文献目録」益岡隆志（編）『日本語の条件表現』くろしお出版、pp. 279-294.

(3) 国語学会・国立国語研究所「国語学研究文献総索引」（Web 上での検索は「国語学研究文献検索」を利用。）

・「国語学研究文献総索引データ 追加文献データ No.1 第 0.9 版」（『国語年鑑』1986 年版～1991 年版に採録された雑誌論文一覧に基づくデータ）

・「国語学研究文献総索引データ 第 1.02 版」（『国語年鑑』1954 年版～1985 年版に採録された雑誌論文一覧に基づくデータ）

(4) 論説資料保存会（1996）『フロッピー版 国語学・日本語学論説資料索引』（『日本語学論説資料（国語学論説資料）』創刊号（昭和 39 年）～第 30 号（平成 5 年）に掲載された論文）

(5) 日本語学会機関誌「国語学」記事一覧・索引（機関誌『国語学』の総目録・索引（第 1 号～第 200 号まで））

(6) 『計量国語学』（計量国語学会ホームページ ページ目次）

(7) 『表現研究』（表現学会『表現研究』バックナンバー）

(8) 『日本語教育』（日本語教育学会『日本語教育』掲載論文 検索エンジン、58 号（1986 年 2 月）以降の号のみの検索）

(9) 『日本語学』（明治書院）、『月刊言語』（大修館書店）の目次検索（静岡大学言語学教室（人文学部 言語文化学科 比較言語文化コース 言語学分野）言語学関連の入手容易な文献の検索（文庫、新書、『月刊言語』、『日本語学』、その他）を利用）

(10) 国文学研究資料館「国文学論文目録データベース」

(11) 国立国会図書館蔵書検索・申込システム（NDL-OPAC） 雑誌記事索引検索

(12) 国立国会図書館サーチ（NDL サーチ）

(13) 国立国語研究所編『国語年鑑』（2004 年版及びそれ以前）大日本図書

- (14) 国立国語研究所編『日本語教育年鑑』（2005 年版及びそれ以前）くろしお出版
- (15) 国立国語研究所「日本語研究・日本語教育文献データベース」
- (16) 国立情報学研究所 CiNii（NII 論文情報ナビゲータ[サイニィ]）

3. 公開条件

本データは、
Creative Commons 表示 - 非営利 - 改変禁止 4.0 国際 (CC BY-NC-ND 4.0 DEED)
で公開します。

(<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/deed.ja>)



4. 利用条件

『接続詞関係研究文献一覧』を利用した研究成果を発表される場合は、下記の情報を明記してください。

馬場俊臣(2024)『接続詞関係研究文献一覧』（2024 年 3 月公開第 1 版）

○関連文献

馬場俊臣（2005）「国語教育における接続詞指導・習得に関する研究文献とその概要」『札幌国語研究』

（10），北海道教育大学国語国文学会・札幌，pp. 1-25. (<https://doi.org/10.32150/00007245>)

馬場俊臣（2006）「日本語教育における接続詞指導・習得に関する研究文献とその概要」『札幌国語研究』（11），北海道教育大学国語国文学会・札幌，pp. 1-23.

(<https://doi.org/10.32150/00007267>)

馬場俊臣（2008）「文体に関わる接続詞研究文献とその概要」『語学文学』（46），北海道教育大学語学文学会，pp. 9-29. (<https://doi.org/10.32150/00010660>)

馬場俊臣（2008）「『接続詞関係研究文献一覧』の作成と公開」深井人詩（編）『文献探索 2007』，金沢文圃閣，pp. 344-350. (<https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/2000121>)

馬場俊臣（2010）『現代日本語接続詞研究—文献目録・概要及び研究概観』，おうふう.

5. 作成者、問合せ先

作成者：馬場俊臣

問合せ先：『接続詞関係研究文献一覧』に関するお問い合わせ、ご意見などは、馬場俊臣(baba. toshiomi@s.hokkyodai. ac. jp)まで電子メールにてお寄せください。